



よろい
甲を着た古墳人だより



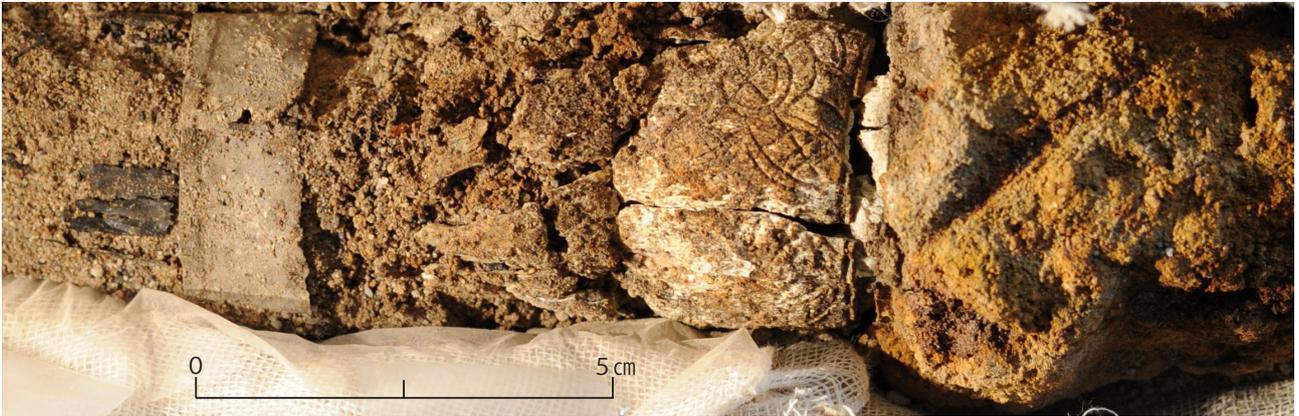
公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

てつほこ てつぞく
飾られた鉄矛と鉄鏃

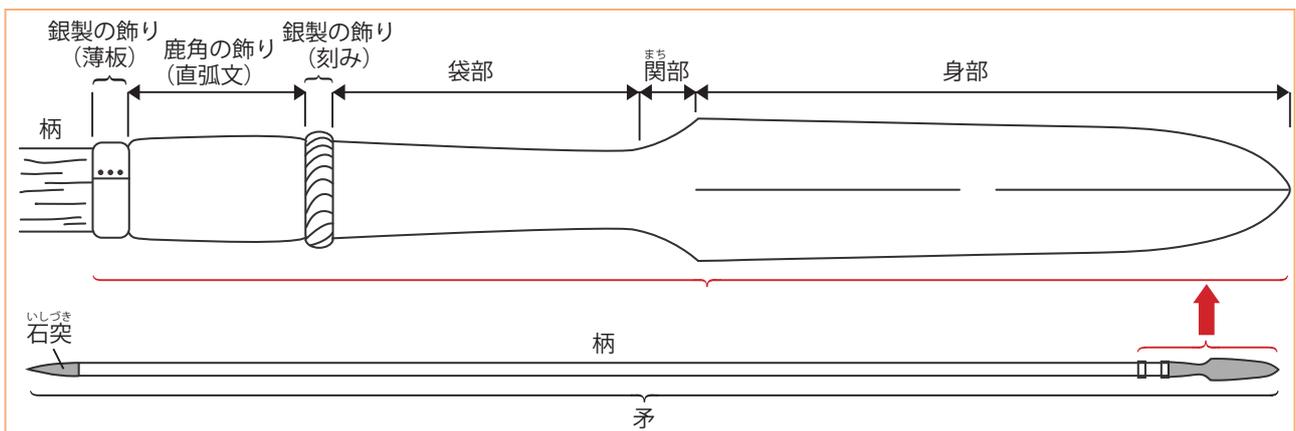
『甲を着た古墳人だより Vol. 1』で報告したように、甲を着た古墳人の近くから鉄矛と鉄鏃が出土しています。矛は木製の長い柄を身の袋部に差し込んだ槍に似た武器です。金井東裏遺跡の鉄矛には、鹿角や銀製とみられる飾りが付けられており、鉄鏃にも鹿角製とみられる球形の飾りが付けられていました。

鹿角製の飾りを付ける例は、5 世紀後半～6 世紀前半の刀や剣、刀子などに多くみられ、刀と剣だけで全国で 300 例ほどが知られています。しかし、鉄矛や鉄鏃に鹿角製の飾りを付けた例は極めて珍しく、熊本県宇城市国越古墳から出土した鉄矛と、大阪府羽曳野市峯ヶ塚古墳から出土した鉄鏃だけです。

これだけ希少な鉄矛と鉄鏃が、金井東裏遺跡では両方ともにあったことの重要性を考える必要があるでしょう。また、甲を着た古墳人は、腰に提碁と鹿角製の柄を付けた刀子を持っており、さらに、2号甲の内部からは国内初の骨製小札も発見されています。以上のように、極めてバラエティに富んだ骨角製品が使われていることが金井東裏遺跡の特徴の一つです。



鹿角・銀装矛の装具



鉄矛の模式図

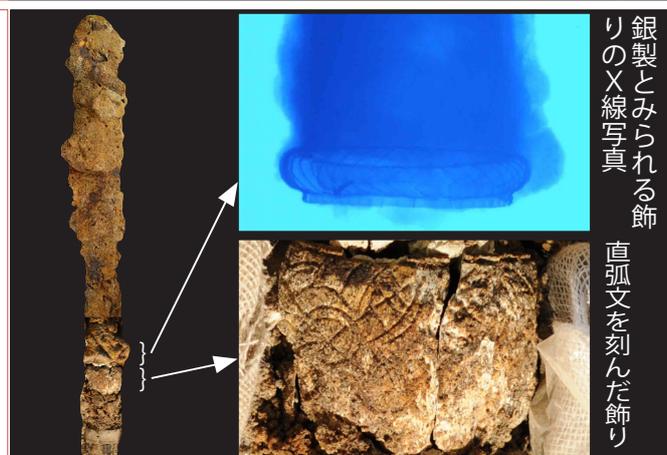
■鉄矛は甲の南西から出土した

鉄矛は、甲を着た古墳人や2号甲から南西へ5mほど離れた平坦な場所から出土したもので、先端が北を向いた状況で火砕流で覆われていました。木製の柄は、腐ってしまったらしく確認できませんでした。また、柄の先端に付く石突も、確認できませんでした。



■鉄矛には鹿角と銀とみられる飾りがあった

鉄矛は、柄の先端に直弧文を刻んだ鹿角製とみられる円筒状の飾りを付け、さらにその上下両端には銀製とみられる飾りを付けたとても珍しいものでした。銀製と鹿角製の飾りの両方を付けた例は、国内では初めての発見です。



■鉄鏃すべてに飾りが付けられていた

鉄鏃は、鏃の本体から茎に移る鬚という部分に、鹿角製の球形または円筒形をした飾りを茎側から差し込み樹皮を巻いて固定したようです。出土した20数本すべてにこの飾りが付けられていたと考えています。



■鉄鏃は、入れものに収められていた

20数本の鉄鏃は、先端を上にして矢入れ具に収められていたものが、火砕流で東に倒れたものと考えられます。鹿角製の飾りを付けた鉄鏃は、大阪府峯ヶ塚古墳でも数例知られていますが、すべての鉄鏃に鹿角製とみられる飾りを付けた金井東裏遺跡の鏃は際立ったものです。

